

セイスポ

星槎スポーツ新聞

第3号 ★ 2016年10月5日(水)

星槎グループ セイスポ編集部発行
神奈川県 中郡大磯町国府本郷 1805-2



ンターハイ予選で惜敗した桐光学園戦の後、選手間ミーティングで何度も話し合い、課題を共有してきた。課題についても「チームは、レベルアップしている」(副キャプテン今永康太くん)という。3年生にとっては最後の大会。強い想いを持って試合に臨む。

VOICE
金原 陸生くん(3年)
昨年はベスト32で敗戦し、悔しい思いをした。一人ひとりがチームのために戦うことができて、神奈川を制し、全国大会に出場したい。

大会に挑む3年生

DF 安保 龍一 ハードワークとカバーリングが魅力	FW 大館 乃輔 ドリブルで高いテクニックを駆使	MF 佐藤 大地 ゴールを果敢に攻める	MF 須藤 悠斗 相手の攻撃の芽をいち早く摘む
GK 市川 暉記 シュートストップでチームを救う守護神	DF 加藤 日向 キャプテンとしてチームを引っ張る	MF 佐藤 裕斗 チーム1のユーティリティプレイヤー	DF 富田 稜 50mを5秒台で走る韋駄天
MF 今永康太 チーム戦術への高い理解	FW 門松 駿 ダイナミックな走り得点をゲット	MF 山宮 佳央 素早い寄せで相手にプレッシャー	DF 西田 悠人 ディフェンスラインから味方を鼓舞
DF 今井 康太 オーバーラップで攻撃の機会を作る	FW 金原 陸生 粘り強いディフェンスが持ち味	FW 志村 智哉 魂のこもったプレーに期待	MF 中野 佑哉 抜群のシュートセンス
MF 山宮 佳央 素早い寄せで相手にプレッシャー	DF 西田 悠人 ディフェンスラインから味方を鼓舞	MF 吉岡 虎利 献身的なプレーでチームに貢献	DF 宮城 一斗 チーム屈指のファイター
FW 野原 熙 観客の心を動かすハードワーカー	MF 吉野 将伍 相手DFをはねとばす突破力	FW 宮川 公輔 スピードと空中戦に自信	MF 二見 怜 テクニックが魅力

駆け上がり 頂点へ

サッカー選手権 予選始まる

心を
ひとつに



MF 今永康太 チーム戦術への高い理解	DF 今井 康太 オーバーラップで攻撃の機会を作る	FW 門松 駿 ダイナミックな走り得点をゲット	MF 山宮 佳央 素早い寄せで相手にプレッシャー
DF 今井 康太 オーバーラップで攻撃の機会を作る	FW 金原 陸生 粘り強いディフェンスが持ち味	FW 志村 智哉 魂のこもったプレーに期待	DF 西田 悠人 ディフェンスラインから味方を鼓舞
FW 志村 智哉 魂のこもったプレーに期待	FW 野原 熙 観客の心を動かすハードワーカー	MF 吉野 将伍 相手DFをはねとばす突破力	MF 吉岡 虎利 献身的なプレーでチームに貢献
DF 今永康太 チーム戦術への高い理解	DF 西田 悠人 ディフェンスラインから味方を鼓舞	DF 宮城 一斗 チーム屈指のファイター	FW 宮川 公輔 スピードと空中戦に自信
MF 山宮 佳央 素早い寄せで相手にプレッシャー	MF 中野 佑哉 抜群のシュートセンス	MF 二見 怜 テクニックが魅力	

VOICE

濱崎 大輝くん(1年)
試合を通して1勝することの大切さを知った。日々のトレーニングでさらに努力しなければと感じている。この後、新人戦等がある。今までの試合で学んだことを活かしてチームに貢献したい。



足利高校戦の前に

男子サッカー クラブチーム

湘南学習センター、男子サッカークラブチームは、第24回Jリーグユース選手権大会関東1次予選に出場。グループDに入り7チームのリーグ戦を行い、1勝3敗2分、勝点5、6位で残念ながら敗退した。神奈川県U18リーグ第3部では、Xリーグに所属(9チーム)。9月10日には、足柄高校と対戦。3対0で勝利。成績は、6試合が終わり、2勝2敗2分、勝点8(9月10日現在)。残り3試合、結果と内容のある試合にこだわりチャレンジする。

工藤恭徳監督はチームについて「選手一人ひとりの意識が変わってきた。全体練習への取り組みもより良くなった。個人練習をする選手もさらに増えた」と話す。クラブチームは公式戦が多い。工藤監督が、レベルアップのため、また自信につなげるために試合出場機会を多くしていることが選手たちのモチベーションアップにつながっている。

Rio Paralympics

リオパラリンピック結果

- ◆競泳男子100m自由形S6 (1分04秒70)
ミン・ミヤツ・アウン 予選 1分14秒12
- ◆競泳男子100m背泳ぎS6 (1分10秒84)
ミン・ミヤツ・アウン 8位入賞 1分24秒23
- ◆陸上 男子400mT43/44 (49秒66)
チョー・ウィン・チョー 8位入賞 56秒74

(編集部 大嶋竜太郎)



MoU 調印式 宮澤保夫会長(写真左)とジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下(写真右)

※カッコ内はパラリンピック記録
※S、Tは競技種目、数字は障がいのカテゴリーを表す

**ミャンマー
水泳・陸上で
8位入賞**

オリンピックに続き、第15回夏季パラリンピックがブラジルのリオデジャネイロで開催された。期間は9月7日から18日までの12日間。ミャンマーは2名の選手が出場。それぞれが8位入賞を果たした。

先日まで開催されていたリオパラリンピックでも、参加国・地域はオリンピックの8割程度。東京オリンピック、パラリンピックでは、これまで一度も参加がなかった国・地域に参加を促すという活

SEISA OLYMPIC NEWS
未来に向けて
スポーツを超えて

ブータンパラリンピックへ

9月、星槎グループ会長・世界でも財団副理事長の宮澤保夫氏、学校法人国際学園理事長・世界子ども財団評議員の井上一氏がブータン王国を訪問。2020年の東京オリンピック、パラリンピックに向け、ブータンオリンピック委員会(BOC)会長のジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下を始め、関係者と協議を重ねた。BOCとの間に、Butan-Japan Sports Collaboration 2016-2020のMOU(覚書)を締結した。これは、2014年9月に、エリトリアの東京オリンピック、パラリンピック参加を支援するためにエリトリアオリンピック委員会(ENOC)との間で締結したMOUに続き、2ヶ国目となる。

ブータン王国については、2020年に向けて事前キャンプを神奈川県で実施するため、BOC及び、ブータン王国の競技支援団体との連携を強化していく。

SAAB 2016
開催に期待!

ガーナ音楽にふれて つながる

星槎グループの宮澤保夫会長のエリトリアやブータン等との繋がりをきっかけとして、多くの人々に対し、今後の社会の在り方を考える機会を提供するSAAB(SEISA Africa・Asia Bridge 2016)は、11月12・13日に開催。昨年は、アフリカがテーマ。11ヶ国の大使館を含めた17ヶ国の方々にご協力いただき、固

湘南校
筋肉の祭り

9月10日、星槎湘南大磯キャンパスで星槎学園湘南校の体育祭「第19回筋肉の祭り」が開催された。数日前からの雨模様を忘れるような晴天の下、生徒たちは運動に汗を流した。

当日は、フリースクールのぞみ教室、高等部、専攻科の生徒、約200名が参加。体育祭は、相手を尊重する行動をとることを通し、「人を認める・人を排除しない・仲間を作る」という星槎の三つの約束を体現する場とする。星槎の共感理解教育の実践の場とすること等を目的としている。湘南校では、体育祭を「筋肉の祭り」としている。かつて、

「筋肉クラブ」というクラブがあり、その名前をもとに「筋肉の祭り」となった。ハイレイトは学年対抗リレー。この種目のみは、学年ごとで競い合う。レースには先生チームも参加する。大先輩の中、ゴールしたのは見事?先生チームだった。

その他の種目は、50m走といった本格的なものや、大縄跳びやPK戦、保護者参加のくつ飛ばし等のユニークなものもある。これらの種目を海、山の2チームで戦い、総合得点を競い合う。接戦に接戦で、それぞれのチームが声を張り上げて応援合戦を繰り広げた。今年は347対346海チームが1点差で優勝した。チームは各学年を二つに分け、学年を横断したチーム編成となる。学年

めるものであることを体験し、星槎のテーマである共生を考える機会としてください。

(横浜支局 蓮田亮大)

**スポーツを通して
地域を支える**

星槎グループは、9月1日より神奈川県箱根町にある箱根町総合体育館の指定管理者となり、同施設の愛称を「星槎レイクアリーナ箱根」とした。同施設には、固定席452席のメインアリーナの他、サブアリーナ、トレーニングルーム、会議室、ランニングコースなどがある。トレーニングルームは、星槎が新たに高年齢の方からアスリートまでが使用できる器具を揃えた。イン



学年別対抗リレー スタート

ごとのチーム分けは、ホームルームで生徒が話し合いの上で決める。生徒たちの自主性は、企画、運営の面でも発揮される。今年度新設された体育コースの生徒12名が中心となり、体育祭の企画、運営を行った。「1年生の体育コースの生徒たちの懸命な取り組みが準備等において、高等部の生徒はもちろん、フリースクールのぞみ教室や専攻科の生徒の心を動かし、全体での協力につながった」と主担当の山本洋司教諭は成果を語った。実行委員長の小澤綾斗くん(1年)は、「学

年を乗り越えて、筋肉の祭りを一致団結し協力して行うことができた。準備等で大変だったが、当日はケガもなく皆が楽しくできたのが良かった。来年も体育コースが中心となり、さらにメリハリのあるものにしたい」と振り返っている。

この大会は、世界唯一のブラインドダンス大会。競技は、フルツ、タンゴ、ルンバ、チャチャチャ4種目を男性、女性どちらかが視覚障がい者のペア、視覚障がい者同士のアパに分け、全日本選手権、ライジングスターの2部門の計23カテゴリーで行われた。

横浜市から来た女性、二上上司が出演しているのが見学にきました。大変レベルが高くてびっくりしました」と話すほど、どのペアも息のあった華麗なステップを見せていた。全日本選手権ルンバ男性部門で優勝した富田選手、福田選手は、二人が組み合わさって初めて踊る。そこが一人で踊るのとは違う楽しさ、音楽に合わせて一緒に踊るので、息を合わせているような動きができる。この(福田選手)と社交ダンスの楽しさを語った。

ブラインドサッカー等とは違い、ブラインドダンスは特別な用具等を必要としない。さらに、競技ルールや審査方法も通常と同じである。元来社交ダンスは年齢や身長等の制限はない。皆が同じフロアで踊ることを基本としているからだ。社交ダンスは、男性がリードし、女性がそれをフォローすることで成り立っている。リードは、動きそのものだけでなく、女性に次の動作を気持ちで伝えることが重要となる。女性は、その気持ちを感知し、次の動作を想像する。想像することは、その人の見え方に関係がない。社交ダンスは、さまざまな人が、同じフロアでペアとしてできる競技なのである。

JDCブラインドダンス委員会の津田雅彦委員長は、「お互いが直接触れ合っていることがブラインドダンスの素晴らしい」と語る。その素晴らしい世界に広めることが今後の目標だ。

手を取り合い踊るブラインドダンス
選手権

表彰状を手にする富田選手(左)、福田選手(右)

8月28日、JDC(公益社団法人日本ダンス協会)が主催する全日本ブラインドダンス選手権大会(神奈川県後援、星槎グループ、世界子ども財団他協賛)が、神奈川県ライオンタワーで実施された。当日は、黒岩祐治神奈川県知事も来場された。JDC中川勲会長(当時)をはじめとし、7月に亡くなられた吉野ゆりえさん(星槎大学客員研究員)のご尽力により2006年に第1回が開催されて以来、今年で11回目となる。当日は、競技者108名を含む約300名が来場した。この大会は、世界唯一のブラインドダンス大会。競技は、フルツ、タンゴ、ルンバ、チャチャチャ4種目を男性、女性どちらかが視覚障がい者のペア、視覚障がい者同士のアパに分け、全日本選手権、ライジングスターの2部門の計23カテゴリーで行われた。

横浜市から来た女性、二上上司が出演しているのが見学にきました。大変レベルが高くてびっくりしました」と話すほど、どのペアも息のあった華麗なステップを見せていた。全日本選手権ルンバ男性部門で優勝した富田選手、福田選手は、二人が組み合わさって初めて踊る。そこが一人で踊るのとは違う楽しさ、音楽に合わせて一緒に踊るので、息を合わせているような動きができる。この(福田選手)と社交ダンスの楽しさを語った。

ブラインドサッカー等とは違い、ブラインドダンスは特別な用具等を必要としない。さらに、競技ルールや審査方法も通常と同じである。元来社交ダンスは年齢や身長等の制限はない。皆が同じフロアで踊ることを基本としているからだ。社交ダンスは、男性がリードし、女性がそれをフォローすることで成り立っている。リードは、動きそのものだけでなく、女性に次の動作を気持ちで伝えることが重要となる。女性は、その気持ちを感知し、次の動作を想像する。想像することは、その人の見え方に関係がない。社交ダンスは、さまざまな人が、同じフロアでペアとしてできる競技なのである。

JDCブラインドダンス委員会の津田雅彦委員長は、「お互いが直接触れ合っていることがブラインドダンスの素晴らしい」と語る。その素晴らしい世界に広めることが今後の目標だ。

道都大学 部活報告

陸上部

インカレ出場

9月2日〜4日、全日本インカレ(天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会)が、埼玉県熊谷市の熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で実施さ

れた。東洋大学の桐生祥秀選手が1000mで10秒08(大会新記録)をマークしたことで話題となったこの大会に道都大学の3選手が出場した。

日本インカレ結果

- ◆男子5,000m (優勝タイム 13分51秒99)
松館 悠斗(経営学科1年)
途中棄権
- ◆男子10,000m (優勝タイム 29分00秒51)
原 由幸(経営学科3年)
19位 31分03秒55 (34名中)
- ◆男子3,000m障害 (日本学生記録 8分38秒27)
滋野 聖也(経営学科2年)
9位 8分59秒57 (29名中)
予選 2組
8分52秒73

女子バレー部

秋季リーグ 始まる

道都大学は部活動が盛ん。中でも柔道部は、8月に開催された第18回北海道学生柔道団体重別団体優勝大会で、男女共に優勝した(女子は第8回大会)。

また、硬式野球部は現在、札幌6大学野球・秋季リーグ(札幌学生野球連盟第1部リーグ)の真最中。バレー部も9月17日から秋季リーグが始まった。女子は北海道バレーボール連盟女子1部リーグに所属。春季大会は2勝3敗で惜しくも4位(6チーム中)となった。それで



道都大学 女子バレー部 川崎キャプテン

も3年生でキャプテンの川崎未悠さん(経営学科)は、サーブカット返球率1位(72.6%)でレシーブ賞を受賞した。子どもの頃からバレー一筋だった川崎さん。サーブカット返球率も最終戦までは1位ではなく、成績発表の時にびっくりしたそう。頼りがいのあるキャプテンとしてだけではなく、北海道大学女子バレーの最高のレシーバーとしてチームを支え続けている。来春、道都大学女子バレー部には、星槎国際高校湘南学習センターの女子バレー部員が2名入学する予定。

女子サッカー部 宮澤ひなた U17日本女子代表に選出

速報

星槎国際高校湘南学習センター女子サッカー部の宮澤ひなたさん(MF)が、9月30日に開幕するFIFA U17女子ワールドカップヨルダン2016の日本女子代表メンバーに選出された。宮澤さんは、昨年のAFC U16女子選手権中国2015に続き日本女子代表となった。日本は、グループDで、アメリカ、パラグアイ、ガーナとグループAステージを戦う。グループAステージは、10月1日〜8日まで。13日から準々決勝となる。詳細は次号に掲載予定。

アスリートの見えざる敵(上)

入ってきた一人の女子高生。陸上部で、長距離を走っているのですが、部活の成績が悪くて…。授業も部活の練習も集中できていない気がします。と元気のない声で言う。採血してみたところ、診断は鉄欠乏性貧血。血中のヘモグロビン量が減っており、体が酸欠状態だったのだ。

皆さんは「スポーツ貧血」という言葉をご存知だろうか? スポーツに力を入れている星槎グループの、野球・サッカーなど華々しい活躍はいうまでもない。だからこそ、スポーツがもたらす貧血について正しく知っていただけるよう、お話ししたい。

まずは、スポーツ選手は貧血になりやすい。平成8年の国民体育大会に出場した社会人選手において、女子の23.8%に、男子の7.3%に貧血を認めた報告がある。だが、アスリートに限った話ではない。平成21年度、高知県

星槎グループと私の初めての出会いは、大学5年生の11月。相馬に行くと友人から誘いをうけ、右も左も分からないまま大阪から仙台まで飛行機に飛び乗った。工事中の常磐道を上り、着いた所が相馬にある星槎グループの合宿所だった。星槎グループの尾崎達也先生は、私たちを歓迎してく

今回、このコラム欄に執筆する機会を頂いたきっかけは、私の著書である光文社新書「貧血大国・日本」の章の一つに「スポーツと貧血」についてまとめたからだ。大学6年生

実は、スポーツ選手は貧血になりやすい。平成8年の国民体育大会に出場した社会人選手において、女子の23.8%に、男子の7.3%に貧血を認めた報告がある。だが、アスリートに限った話ではない。平成21年度、高知県

なぜ、スポーツをしてい

お詫び

第2号、6面の女子サッカー部の試合結果に誤りがありました。正しくは、「1回戦 星槎国際湘南3対0 開志学園JSC高等部(新潟)」です。訂正してお詫び申し上げます。

スポーツ★ここに注目!!

チーム名の由来

読むスポーツ

第3回 ほんだ てつや 著 菅田 哲也

なでしこジャパンはど

子」からとった言葉と言

そして同じ湘南のサッ

剣豪小説はた

星槎 教師 列伝

選手で甲子園 監督で全国大会 星槎国際高等学校 福岡中央学習センター 坂本鉄兵 教諭

坂本は甲子園出場10回

とができた。それで中学

3年連続で定通全国大会

中学校での実績を買われ

スポーツコース 部活使い

星槎国際高校湘南学習センター・スポーツ専攻の各専攻(部活動)が、それぞれの大会で結果を出している。

女子サッカー部 関東へ進出

第25回神奈川県女子サッカー選手権大会の決勝が9月19日に行われた。湘南学院と対戦し、結果は2対3で惜敗。準優勝となった。この大会は4グループの予選リーグ(14チーム)で戦い、各グループ1位のチームが決勝トーナメントに進出する。女子サッカー部は、決勝トーナメントからの出場。同様に決勝トーナメ

ントから参加の3チーム、予選から勝ち上がった4チームの計8チームでトーナメントを行った。優勝、準優勝のチームは、11月に神奈川県内で開催される第25回全日本高等学校女子サッカー選手権大会関東予選に出場する。関東予選は、関東の8都県から16チームが参加。7位までが12月から始まる冬の選手権に出場する。女子サッカー部は、創部以来2年連続で選手権への出場。

セイスポ 女子サッカー部 3年連続の全国へ



決勝戦に出場する選手たち

土屋恵三郎監督、選手のコメントは次号で詳しく報告します。乞うご期待！

野球部

秋季県大会

硬式野球部が快進撃。秋季県大会(平成28年度神奈川県高等学校野球秋季県大会)で準々決勝に進出。初の県大会ベスト8入りを果たした。地区予選を3戦全勝で通過し、2回戦からの登場となった県大会。3回戦では延長15回まで戦い抜く等、数々の感動的なシーンを見せた。

横浜戦

7回に猛攻

準々決勝は、横浜の4万波選手の3ランホームラン等で6回までに8失点。追いかける展開となった。8対0で迎えた7回の裏に星槎の猛攻が始まった。3番松下壮悟くん(1年)、4番田島大輔くん(2年)が四球で塁に出た後、代打杉田健輔くん(2年)が右中間を破る2塁打。1点を返す。横浜はピッチャーを交代するも、そこから5安打を集め、5点を奪った。攻撃中、応援団は、誰もが1週間前の鎌倉学園戦を思い出していた。4失点で迎えた9回の裏の反撃。2アウト3塁から小倉健太郎くん(1年)の2塁打で同点に追いつき、延長戦にもち込んだ。塩谷貴男部長は「あの試合からチームに勢いがついた」と言う。あの日の攻撃を再び、という気持ちの応援団のボルテージは最高潮になった。7回の攻撃で一挙6得点、さらに続く8回、9回もランナーを出したが、後一歩、及ばなかった。それでも夏の王者を土俵際まで追い詰める健闘を見せた。



試合前、グラウンドを走る選手たち

野球部 初のベスト8

猛攻の口火を切った杉田くん

バレー部

声出して行きましょう！

体育館の外まで選手たちの掛け声が響く。全員で声を出し合って練習に臨んでいる。基本練習は、選手たちがキビキビと進めていく。バレー部の練習が、11月の春高バレー県予選(第69回全日本バレーボール高等学校選手権大会神奈川県予選会)を控え状況を呈している。9月24日には、平成28年度西相地区高等学校バレーボール秋季大会に出場する。この大会は、神奈川県西相地区15校のトーナメント。大会の結果が新人戦のシード校決定の基準となる。



トス練習をする女子バレー部

女子バレー部は夏休み中、二度の合宿を行った。合宿では、都道府県で1位、2位に入るチームと練習をした。また、練習試合も強いチームと数多くこなした。1回で10セット練習試合を行う。10セットは、通常の3試合と5試合に相当する。試合ごとに、サブ等のデータも取り分析を行う。羽田野義博監督は「勝ち負けも当然重要だが、内容がさ

大学と 合同合宿

陸上部が、7月に道都大学で15日間、8月に創価大学セミナーハウス(長野県菅平高原)で7日間の合宿を行った。秋の大会に向けて、涼しい環境で走り込みを行うことが目的。道都大学では、星槎出身の学生と一緒に、創価大学では、大学生や他高校の生徒と一緒に練習をした。合宿について陸上部の坂田和監督は、「他の高校の生徒とは、一緒に練習をして良い刺激を得られた。大学生からは、練習への姿勢、生活態度等で学ぶべきところが沢山あったと成果を語った。一日6時間、7時間に及ぶ合宿で走



道都大学で練習する選手たち

先生も 燃えた！ 夏の 教員大会

全国各地で星槎の仲間がスポーツに夢を懸けている夏。それは先生たちも同じである。ここでは先生たちのスポーツの夏を紹介する。

第41回全国教員柔道大会が8月6日に都内の講道館で行われた。星槎国際高等学校富山学習センターの宮田良教諭が男子団体戦の先鋒として出場し、富山県を全国ベスト16(35チーム中)という成績に導くことに貢献した。試合は1勝1敗だったが、宮田先生は「負けが素直に嬉しい。まだやれるという自信がもてました。今後も定期的に練習を重ね、来年はベスト16以上を目指して頑張ります」と意

気込みを語った。小学生の時、スポーツ少年団で柔道を始めてから小中高校と部活動で鍛え、大学では全国大会に出場した経験を持つ宮田先生は来年度の大会出場に向けて地域の練習会で汗を流している。また、8月11日から鳥取県にて全日本教職員バドミントン選手権大会が行われ、星槎大学の林直樹准教授が団体、シングルスダブルスに参加した。シングルスでは、残念ながら1回戦敗退となったが、ダブルスでは29組中9位、団体では17チーム中5位となった。林先生は「目標には届いていない。日々の練習は嘘をつかない」と自身に厳しい言葉を掛け、「来年の全日本教職員大会が最大の目標だが、2月に行われるシニア選手権にてトレーニングの成果を出し、世界シニア選手権にも出場したい」と熱い思いを語った。林先生は日本オリンピック委員会の強化スタッフにも選ばれており、日本のバドミントン競技のために力を尽くしている。8月17日、18日、埼玉県で第42回関東教職員ソフトテニス大会が行われ、星槎国際高校厚木学習センターの原彩子教諭が個人戦と団体戦に参加した。団体戦は雨天で中止となってしまうが、個人戦ではベスト8の成績を残した。大学時代は全国大会にも出場し、社会人となつてからは、川崎市のランキングで1位になった経験を持つ。次大会へは練習、準備をしっかりして取り組みたい」と話す。今年よりソフトテニス部が出来た厚木学習センター。自身の練習にも部員への指導にも熱が入る原先生に注目だ。

(編集部 中村舞)